

中曽根元首相死去

「戦後政治の総決算」

101歳、国鉄分割・民営化

安倍、佐藤、吉田、小泉各内閣に次ぐ戦後第5位の長期政権を担い、「戦後政治の総決算」を掲げて国鉄（現JR各社）の分割・民営化を実現した元首相の中曽根康弘（なかそね・やすひろ）氏が死去したことが29日、分かった。101歳。群馬県出身。

東京帝国大（現東大）法学部卒。内務省入り後に海軍主計将校となり、終戦を迎える。1947年に衆院旧群馬3区で初当選し、当選20回。科学技術庁長官、通産相、党幹事長などを歴任して82年11月、鈴木善幸首相の退陣を受け第71代首相に就任した。在任期間約5年の1806日間は戦後

第5位の長期政権だった。

首相在任中は国鉄のほか、日本電信電話公社（現NTT各社）、日本専売公社（現日本たばこ産業＝JT）の民営化など行財政改革を進めた。戦後首相初の靖国神社公式参拝や、防衛費の国民総生産（GNP）比1%枠撤廃など国政上のタブーに挑んだ。

対米関係ではレーガン大統領（当時）と「ロン・ヤス」関係を築いた。

